

ETV「すイエんサー」の公開収録現場を活かした キャリア教育に関する実践事例

早岡英介*1・村松 秀*2・高橋 理*2・中村 奈穂子*3

Email: hayaoka@costep.hucc.hokudai.ac.jp

*1: 北海道大学 高等教育推進機構 科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP)

*2: NHK エデュケーショナル 科学健康部

*3: NHK

◎Key Words 映像制作, 公開収録, キャリア教育

1. はじめに

NHK・E テレの科学エンターテイメント番組「すイエんサー」(毎週火曜 19:25~19:55)の公開収録の現場を、キャリア教育に活用した事例について報告する。参加したのは北大学部生や院生、そして科学技術コミュニケーション養成プログラム(CoSTEP)を受講する学生や社会人などあわせて12名。放送業界に関心がある学生向けの業務体験研修として実施され、CoSTEPの教育プログラムも兼ねた。

公開収録は、2013年1月22日に北大工学部で行われた。内容は、女子高生中心の「すイエんサーガールズ」4名と大学生4名が、シンプルな手作り工作で競い合う「知力の格闘技・挑戦状シリーズ」の一つ。収録には、北大から鈴木章・北大名誉教授や、馬場直志・工学部長、永田晴紀・工学研究院教授もゲストで参加し、「北海道大学からの挑戦状!」と題して2013年2月、3月に前後編がEテレで放送された(写真1)。また同年6月に続編も3回に渡って放送される予定(執筆時)。



写真1 公開収録の様子

2. 公開収録の概要

2.1 ETV「すイエんサー」について

「すイエんサー」は中高生をターゲットにした科学バラエティ番組として2009年3月31日に始まった。番組HPではこう紹介されている。「NHK局内のテキトーな場所にベンチを一つ置いてそのまま収録する、ゆる〜くて楽しい科学(?)エンタメ番組、「すイエんサー」。番組のテーマは、視聴者の皆さんからお寄せいただく、なんと〜な〜気になる<素朴なギモン>や、やってみたいな〜という<思い>。日常生活の中でついつい抱くちょっとしたギモンや思いに、MCの渡辺徹、岡田圭右、小島瑠璃子の3人とゲスト、そしてティーンズ向けファッション雑誌で活躍するモデルたち「す

イエんサーガールズ」が体当たりで挑み、自分たちの力だけで解き明かしていきます!」

2011年4月12日に放送された「定規もな〜んにも使わずに、手紙を超ピッタリ3等分にした〜い!」の回は、第28回ATP賞テレビグランプリ2011「情報バラエティ部門」優秀賞を受賞。大阪大学の全学生向け授業「ディスカバリー・セミナー」で指定参考番組として推奨されるなど、番組のコンセプトに共感し、教育活動の参考にする学校関係者が増えている。



写真2 すイエんサー司会の3人 ©NHK

2.2 実施内容

公開収録は、番組としても初の試みだった。北大にとっても、公開収録と連動して業務研修を実施できたことは貴重な経験となった。実施要領を表1に示す。

表1 イベント概要

日時	2013年1月22日 14:30~15:30 ①トークセミナー 16:30~19:30 ②公開収録
場所	北海道大学工学部オープンホール(346名収容・階段教室)
内容①	学生向けトークセミナー「NHK「すイエんサー」の制作現場から」 出演:渡辺徹、岡田圭右(ますだおかだ)、小島瑠璃子、高橋理(番組プロデューサー)、小室崇(番組ディレクター)他
内容②	公開収録「すイエんサー ~北海道大学からの挑戦状!~」 出演:渡辺徹、岡田圭右、小島瑠璃子(司会) 鈴木章名誉教授、馬場直志工学部長、永田晴紀教授(ゲスト) 谷内里早、黒田瑞貴、藤井千帆、小林玲(すイガール) 染谷慎人、坂本達真、横堀野原アナスタシア・アマンダ(北大生)
放送日(ETV)	2013年2月26日「北海道大学からの挑戦状!」(前編) 2013年3月5日「北海道大学からの挑戦状! 完結編」(後編)

2.3 イベントの規模と評価

今回の公開収録に関わったスタッフ等の総数は110人。内訳としては司会やすイガールなど出演者が30名。NHK側のスタッフが66名。北大関係者が14名だった。

客席はほぼ満員となり、観客数は 350 名を超えた。NHK 札幌局のアンケート（回答者数 257 名）では、10 歳未満が 14.8%，10 代が 15.2%，20 代が 33.9%と、若年層が 6 割をこえ、子供連れの親の参加も多く見られた。イベントの評価としては、満足（71.6%）、やや満足（16.7%）で 9 割近い回答を占め、好評であった。

3. 放送業務体験研修について

3.1 研修内容

研修の目標は、上記のイベントの舞台裏を取材し、番組の告知ビデオを制作することだった。12 名が参加し、表 2 に示す要領で行った。大きく番組制作班（7 名・体験業務 1 から 5 まで）とイベント制作班（5 名・体験業務 6 と 7）の 2 グループに分けた。今回、報告するのは、主に番組制作研修についてである。研修全体は NHK 札幌局の中村奈穂子が統括し、技術指導を札幌局技術部職員 2 名が行った。演出や編集といった制作業務は、北大 CoSTEP の早岡が指導した。

表 2 研修の概要（M は修士、C は CoSTEP を示す）

体験業務	参加者(計12名)	指導担当
1. ディレクター	理学院 M1 年(C 受講生) 環境科学院 M1 年(C 受講生) 工学院 M1 年(C 受講生) 工学院 M2 年(C 受講生)	C 教員(早岡)
2. カメラマン	上記と同じ	札幌局技術部 職員 2 名
3. リポーター	文学部 3 年	C 教員(早岡) 札幌局技術 2 名
4. 音声技術	北大職員(C 受講生) 道研究機関職員(C 受講生)	札幌局技術部 職員 2 名
5. 番組編集	C 受講生全員	C 教員(早岡)
6. イベントディレクター	工学部 3 年 法学部 4 年	スイエンサー 制作スタッフ 1 名
7. フロアディレクター	水産学院 M1 年 経済学部 3 年	スイエンサー 制作スタッフ 1 名

研修に参加した学生が制作した告知映像は放送前日の 2 月 25 日、実際に以下の番組の中で放送された。タイトル「スイエンサー in 北海道大学」(2 分間)「つながる@きたカフェ」番組内コーナー「NHK ほっと情報」(北海道地区のみ)

3.2 映像構成表の作成

番組制作班の参加者（リポーター以外）に対して、事前に NHK の制作現場で実際に用いられている「付箋紙を用いた映像構成手法」について教えた（写真 3）。付箋紙にシーンの要素や、ストーリーを書き出し、A0 用紙ほどのパネルボードに意見を調整しながら貼り付けていく。これによって、番組の要素を関係者全員で確認し、初めて見る視聴者でも理解できるストーリーになるよう、要素を並べていくことができる。

3.3 撮影体験

構成表をもとにスケジュールを組み、ロケを行った。参加者はディレクターとカメラマンを順番に交代しな

がら撮影した。またリポーター役として参加した文学部生は、撮影や編集はせざりレポート業務のみ体験した。

司会者 3 人のスケジュールにあわせ、エンディングシーンを先に撮るなど、時間が無い中で臨機応変に動いた。実際に NHK で告知ビデオとして放送するための取材であり、失敗が許されない一発勝負のため、適度な緊張感のもと撮影を進めることができた。

3.4 映像編集作業

公開収録での取材・撮影体験から 10 日ほどたつてから、編集を行った（写真 4）。参加者はそれぞれ自分が撮影したパートを Adobe Premiere Pro CS6 を用いて編集し、最後にそれを 1 本につなぎあわせて完成させた。ナレーションはなく、リポーターのセリフと出演者の声だけで展開するため、テロップで情報を補う必要がある。参加者はそれぞれ、内容を短くシンプルな言葉で象徴的に表現する等、編集に工夫を凝らした。



写真 3 構成の作成



写真 4 編集の様子

4. 教育効果

研修の参加者に対して、記名式のアンケートをとった。「とても満足」が 6 名。「満足」が 1 名。NHK で他にも同様な研修があれば、7 名全員が「受けたい」と答えた。また放送業界への興味については、「とても興味がわいた」(6 名)、「少し興味がわいた」(1 名)。具体的にどこに満足したか尋ねたところ（複数回答可）、「撮影技術指導」(5 名)が最も多かった。NHK 技術職員による直接指導はめったにない体験であり、評価が高かった。「研修は今後の就職活動や仕事に生かせそうですか」との問いに、7 名全員が「大いに役立つ」と答えた。

5. おわりに

これだけ大規模なイベントを、キャリア教育に活かせるような機会はめったにない。今回は NHK 側からの働きかけや尽力が大きくタイミング良く場を設定できた。また早岡の前職が TV ディレクターだったことも 1 つの要因である。研修では、職業に関する知識やスキルを身に付けるとともに、メディアリテラシーに関する学びも得られた。また中央教育審議会が課題とした「チームで特定の課題に取り組む経験」「実社会とのつながりを意識した教育」の実現にも活かせると考える。社会と大学をつなぐ回路としてメディアが果たす役割は大きい。今後も積極的な交流を図るべきであろう。

参考文献

- (1) 村松 秀：“科学ジャーナリズムとテレビ番組制作：NHK「スイエンサー」の現場から（特集 科学とジャーナリズム）”，理大科学フォーラム，29(7) pp.19-23 (2012) .